

2020年度から

いずみおおつの子どもたちの、

授業

と評価

が変わります。

いずみおおつ新教育課程ハンドブック

「ホンモノ」の学びをめざして

学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、
子どもの学びが進化します。

めざすのは、子どもたちが創る「ホンモノ」の学び。

泉大津市の新しい義務教育課程、スタート。

小学校：2020年度～ 中学校：2021年度～



泉大津市教育委員会
Izumiotsu City Board of Education

新学習指導要領で、学校の授業はどう変わっていくの？

泉大津の、

先生が一方向的に説明したことを暗記して、テストで答えるといった受け身の授業（評価）ではなく、新学習指導要領の趣旨のもと、たとえば次のようなアクティブな授業（評価）を充実させていきます。



一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業



自分で課題を発見し、見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業



つけたい
三つの力

学んだことを生かそうとする
学びに向かう力、人間性

(主体的に学習に取り組む態度)
= 「粘り強さ」と「自己調整力」

主体的・対話的で深い学びへ
(アクティブ・ラーニング)

※泉大津市では、より具体的に次の視点を大切にした授業改善を推進しています。
改善の視点…視覚化・焦点化・共有化

周りの人たちと共に考え、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業



自らの学びを振り返りながら、自分の学習を調整し、生活や次の学びに生かす力を育む授業



文章を入力してください。
知識及び技能
(知識・技能)



未知の状況に対応できる
思考力、判断力、表現力
(思考・判断・表現)

学びを支援する評価へ

評価は「子どもの学習改善」と「教員の授業改善」のために

※教員は、子どもたちの評価結果を「次の学び」に生かしていきます。

After

〈例〉発表に向けた議論の様子、作成資料からパフォーマンスを評価

次の授業では…
→話し合いの方法を改善しよう
→考えが表現できなかった生徒をサポートしよう

※授業後

Before

こんな気持ちにならなくなった?
(これまでの評価の課題)

授業は対話や発表が大切っていうけど、結局テスト勉強だけでいい成績になるんですよ。

「評価に入る」課題はまじめに。最近では宿題チェックがぎびしめだから、とりあえず提出。

テストのために必死で詰め込んだ知識。結局、大人になってから、何の役にも立ってない?

対話などを通し「何が身についたか」が大切。だから、これまで以上に、対話・発表場面等を評価し、子どもにフィードバック。思考力・判断力・表現力を育てます。
※ペーパーテストだけ、ではありません。

評価に入るかどうかの心配ではなく、「学び」そのものに向かう力が育っているかが大切。
※提出回数や発言回数、ノートをとっているか等は、教科の評価に含まれません。

学校で習った知識・技能が大人になっても活用できる。そんな生きて働く力につながるテストを充実させたいと考えます。
※学んだ知識・技能が活用できるようになっているかを重視します。

(議論の様子やノートの記述から)

〇〇さんは、既習事項と関連づけて、課題解決の方法を多角的に考え・表現できている。

〈思考・判断・表現〉

(仲間の意見を聞いて…)私のアイデアは良さそう。発表時は、より明確に考えが伝わるよう資料を変更しよう。
〈主体的に学習に取り組む態度〉

※学習者自身による振り返り(自己評価)が大切です。

- 日々の授業の観点別評価は三段階
- A 十分満足できる …活用等、Bを上回る
 - B おおむね満足できる …指導要領の目標を達成(教科書程度)
 - C 努力を要する …Bを実現していない
- 教員は支援を充実・授業を改善

※小学校の通知表…観点別評価のみ・3観点(令和2年度から)
中学校の通知表…5段階評価+4観点(令和3年度より3観点)



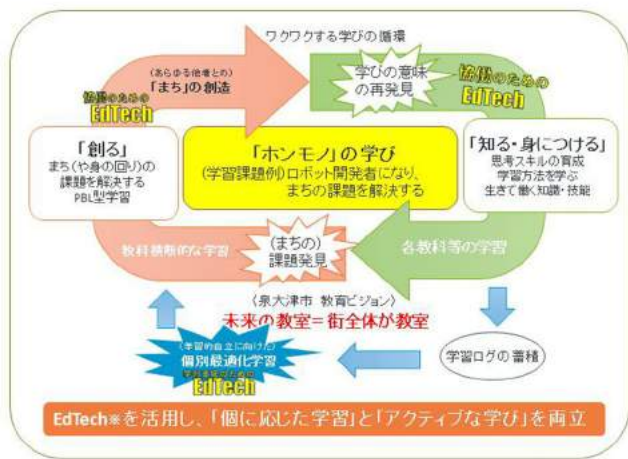
〈これからめざす学びの姿を体感！プロジェクト型課題のイメージ〉

市民も海外の人も気軽に使える「泉大津自動運転周遊バス」を走らせよう！



このように自分たちで見つけた問いや課題を、教科を超えて解決する活動を行うことで、各教科で学んだことが「生きて働く」学び（「ホンモノの学び」）になることをめざします。

※あくまでイメージであり、すべての教科等が課題に関わることを意味するものではありません。



※令和元年11月 泉大津市総合教育会議の提案をまとめたもの

左図は、近い将来、どの学校においても実現したい学びのイメージ図です。泉大津市教育委員会は、子どもたちが、数年以内に、1人1台のPCを手に協働的な学びや個に応じた学びを実現することをめざしています。

例えば、これまでの家庭学習は一律に出される宿題が中心だったかもしれません。EdTechを活用し、自分がもっとも学びたいことを追求したり、自分が苦手なところを集中して学習する。そんな一人ひとりに最適化された学びに向けた取組みもスタートしています。

※EdTech
Education (教育)とTechnology (テクノロジー)を組み合わせた造語。
テクノロジーの力で教育環境を変えていくこと。



学校では、教育目標の実現に向けて、教員が教科や学年を超えて連携し、教育の効果を検証改善する「カリキュラム・マネジメント」を充実させ、教育活動の質の向上を図ります。

保護者の皆さまへ

- 子どもたちの学びが生きて働く「ホンモノの学び」となるには、学校で学習したことを日常生活で活用したり、ご家庭での経験を学校生活に生かしたりすることが、とても大切です。
- お子さんが学校で学んだことについて、ご家庭で、ぜひ話してみてください。保護者の皆さまの働きかけが、子どもたちの成長へつながります。
- 例えば次のような、保護者からの働きかけも有効です。 (文部科学省 新学習指導要領リーフレットより)

- 学校や友達のこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が深い。
- テレビ・ビデオ・DVDを見る時間などのルールを決めている。
- テレビゲーム(携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を含む)をする時間を限定している。
- 子どもに本や新聞を読むようにすすめている。
- 子どもに最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- 自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している。
- 地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になることを重視している。

※泉大津の児童生徒は、全国平均と比べ家庭学習時間が少ないことも経年の課題です。